



ほ 多 当

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
(カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい)
【今月の一冊】「奇跡の言葉」
心屋 仁之助 著 経済界
ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/~prime21/>

発行日 2013年9月1日 Vol. 131
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
代表取締役 渡 邊 敏 徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

父の姿

感動した話をご紹介します。高校の校長先生が、ある生徒の作文を朗読されました。「僕の父親の職業は鳶職である・・・」という書き出しから始まり次の様なことが書かれていました。

父親の休日は定まっていなかった。雨の日以外は日曜日祭日もなく、お定まりの作業服に汚れた古いオンボロ車を運転して仕事に出かける。仕事が終わると頭から足の先まで、泥やホコリで真っ黒くなって帰り、庭先で衣服を脱ぎ捨てて、ふんどしひとつになって風呂に飛び込むのが日課だった。僕の友達がいても平気で、そんな父の姿が恥ずかしく、嫌いだった。

小学校の頃、近所の友達は日曜日になると決まって両親に連れられて買い物や、食事に出かけて行き、僕は羨ましく思いながら見送ったものだ。(みんな立派な父さんがいていいなあ)と涙が流れたこともあった。たまの休みは、朝から焼酎を飲みながらテレビの前に座っていた。母は「掃除の邪魔だからどいてよ」と掃除機で追っ払う。「そんな邪魔にすんなよ」と父は逆らうでもなく焼酎瓶片手にウロウロしている。「濡れ落ち葉という言葉は、あんたにピッタリね・・・この粗大ゴミ!」。「なるほど俺にそっくりかソソソ・・・うまいことをいうなソソソ・・・」と、父は受け流して怒ろうともせずゲラゲラ笑っている。

小学校の頃から、小遣いをくれるのも母だったし、買い物も母が連れて行ってくれた。運動会も発表会も父が来たことなど一度もない。こんな父親などいてもいなくてもかまわないと思ったりした。

ある日、名古屋へ遊びに出かけた。ふと気づくと高層ビルの建築現場に『〇〇建設会社』と父親の会社の文字が目に入った。僕は足を止めてしばらく眺めるともなく見ていて驚いた。8階の最高層に近いあたりに、命綱を体に縛り、懸命に働いている父親の姿を発見したのです。僕は金縛りにあったようにその場に立ちすくんでしまった。(あの飲み助の親父が、あんな危険なところで仕事をしている。一つ違えば下は地獄だ。女房や子どもに粗大ゴミとか、濡れ落ち葉と馬鹿にされながらも、怒りもせず、ヘラヘラ笑って返すあの父が・・・)僕は身体が震えてきた。8階で働いている米粒ほどにしか見えない父親の姿が、仁王さんのような巨像に見えてきた。



校長先生は少し涙声で読み続けた。「僕はなんという不潔な心で自分の父を見ていたのか。母は父の仕事振りを見たことがあるのだろうか。一度でも見ていれば、濡れ落ち葉なんて言えるはずがない。僕は不覚にも涙がポロポロ頬を伝わった。体を張って、命をかけて僕らを育ててくれる。何一つ文句らしいことも言わず、焼酎だけをたのしみに黙々働く父の偉大さ。どこの誰よりも男らしい父の子どもであったことを誇りに思う」そして彼は最後にこう書き結んでいる。「一生懸命勉強して、一流の学校に入学し、一流の企業に就職して、日曜祭日には女房子どもを連れて、一流レストランで食事をするのが夢だったが、今日限りこんな夢は捨てる。これからは、親父のように、汗と泥にまみれて、自分の腕で、自分の体でぶつかって行ける、そして黙して語らぬ父親の生き様こそ本当の男の生き方であり、僕も親父の跡を継ぐんだ」と。

読み終わった校長先生は、「この学校にこんな素晴らしい生徒がいたことをとても嬉しく思います。こういう考え方を自分で判断することが教育の根本だと思います。そして子の親としてつくづく考えさせられました」としみじみ言った。

私たちは、目の前にある事実をなかなか見れていません。本当の姿を見ることにより、自分の行動が変わっていきける力になりそうですね。



【座右の銘にしたい名言】



すべての物事は、プラスもマイナスもなく、ゼロでありニュートラル（中立）である。幸も不幸も存在しない。そう思う心があるだけ。見方を変えればすべてが変わる。

(小林正観/思想家)